

令和3年度 全国学力・学習状況調査の結果から

1. 全国学力・学習状況調査とは・・・

全国的な子どもたちの学力の状況をつかみ、学校における教科指導の充実や学習状況等の改善に役立てるために、平成19年度から毎年、文部科学省が実施する調査です。この調査では、国語、数学（算数）の2教科と3年に1回理科が追加されます。また併せて、生活に関わる生徒質問が出され、小学校第6学年と中学校第3学年の全児童生徒が対象となります。

(1) ねらい

全国的な児童・生徒の学力や、学習状況を把握し分析するとともに、学校における生徒への教科指導の充実や学習状況等の改善に役立てます。

(2) 実施の状況

実施日	令和3年5月27日（木）
対象生徒	3年全生徒
実施教科等	国語・数学・生徒質問紙

調査問題と正答例は、国立教育政策研究所のWebページから見ていただくことができます。

<https://www.nier.go.jp/21chousa/21chousa.htm>

2. 結果を受けて

他のテスト同様、結果を見て一喜一憂しているだけでは意味がありません。「本校の強みや弱みはどこなのか」「改善されていないところはどの部分か」解答の状況や誤答からしっかりと分析して、今後の授業に活かしていきたいと考えています。また、生徒の質問紙から見える本校の生徒の状況や家庭での生活、それらを総合的に照らし合わせ、今までの実践を振り返り、今後の方策を全職員で検討しています。各教科の強みや弱み、生徒質問紙から見える本校の状況を以下にまとめていますのでご覧ください。

3. 学力調査の結果

(1) 国語

①良かった点（強み）

○言語についての知識・理解・技能について、漢字の読み、書き語句の意味についての理解や話し合うことについて、話し合いの話題の方向性を捉えたり、質問の意図を捉えたりすることに優れていた。

②課題となる点（弱み）

○「文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えを持つこと」「相手や場に応じて適切に敬語を使うこと」に課題が見られた。また、自分の考えを具体的に書く問題の無回答率が高かった。

(2) 数学

①良かった点（強み）

○与えられたデータ、表、グラフから意図していることを読み取る問題は、高い正解率であった。

②課題となる点（弱み）

記述式の問題形式のものは、無回答率が高かった。また、回答時間は、「十分にあった」と答える生徒の割合が多く、解く前から解くことをあきらめた生徒が多かったことが本校の大きな課題である。

4. 生徒質問紙の結果

(1) 設問別にみてよかった点

○設問㉗：「あなたは学校で、コンピュータなどの ICT 機器を、他の生徒と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか」

回答：ほぼ毎日、週一回以上と肯定的に回答した割合は、県平均 31.8%、全国平均 34.8%と比べ、栗東中 53.6%と高い値を示した。

○設問㉘：「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」

回答：当てはまる、どちらかといえば、あてはまると肯定的に回答した割合は、栗東中 78.7%となり、全国平均 73.9%を上回る値を示した。

(2) 設問別にみた課題

○設問㉙：「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)」

回答：1時間以上していると回答した割合は、県平均 73.8%、全国平均 77.6%と比べ、栗東中 58.5%と低い値を示した。

○設問㉚：「普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか」

回答：3時間以上していると回答した割合は、全国平均 32.3%に比べ、栗東中 48.7%と高い値を示した。

3. 今後の取り組み

今回の結果をもとに、「基礎基本の徹底」「授業改善」「話し合い活動の充実」を課題の重点とし、以下に取り組みます。

(1) 「基礎基本の徹底」

授業で、漢字の読み、書き、計算等の小テスト等で基礎基本の定着を徹底していく。また、ICTの効果的な活用により、個別最適化された学びが可能になるドリル等を使い家庭学習を充実していく。

(2) 「授業改善」

・どのように学習を進めるのか、生徒が見通しをもって学習に取り組み、学びが実感できるよう「授業の振り返り」を引き続き大切に指導していく。「教えあい」や「学びあい」の時間を意図的、計画的に設定して、安心して学べる学習環境を整える。

・国語科では、自分の考えや質問に対する答え方、形式に慣れるようにする。「問われている描写を見つけ、場面設定を捉える」から「その状況について自分の考えをもつ」のようにスモールステップで指導していく。

・数学科では、数学的に説明、表現する練習を繰り返し行うことにより、形式的な理解で終わるのではなく、数学的に理解できるようにする。

(3) 「話し合い活動の充実」

・国語科における話し合い活動を通して、自分の考えをしっかりと持ち、発表し、多様な考え方に触れ、自分の学びを広げたり、深めたりできるようにしていく。また、対話的な学習を積み重ねることで、自分の考えが分かりやすく伝わる表現力を育成する。

・数学科における話し合い活動を通して、観察や操作、実践を取り入れ、成り立つ条件や理由を検討したり、正しく活用したりできているかを確認していく。